

全國労働のインフレ景氣対策運動

昨年を國社運動に災されて陣容の再建等内部整理に忙殺され比較的消極的に送つた全國労働は、恰も惹起したインフレ景氣を逃さず、本年勞頭より積極的活動を起さんとして居る。

即ち、新年勞頭組合常任委員、並にオルガナイザーの配置を充實して今後の闘争に使ならしめたが、第二回中央委員會の決議に基き聯合會としてインフレ景氣に對する賃銀値上運動を行ふこと、なり、二十七日その運動の第一歩として鈴木悦、山口常、井上良の首腦者を始めとする常任五名等は大阪府、大阪市を歴訪し更に翌二十八日には陳情班三班を編成し手わけをなして、資本家団体たる大阪商工會議所、關西産聯、紡績聯合會、大阪工業會、織工業同業組合、日本輸出メリヤス工業組合聯合會、並に大阪輸出メリヤス工業組合、ガラス同業組合聯合會、木材工場同業組合、印刷同業組合、近畿球藻織器工業組合、日本輸出刷子工業組合聯合會、石炭協會、主なる

資本家^(別)としては、住友合資會社、大阪鐵工所、汽車製造株式會社、

大阪瓦斯株式會社、東洋天日本、福島、鐘ヶ淵大阪支店の各紡績會社を訪問しそれぞれ別紙書類を提出して賃銀値上の要請をなした。

各団体各社共具体的回答を賜ふるものなく要は「承り置く」の程度であつたが、組合としては今後個別的に運動の歩を進むる爲二月二日には常任會議と共に擴大執行委員會を開催する豫定である。

一齊的運動は、右の如くその尖端を顯した程度であるが、各組合支部の個別的運動乃至爭議は、各所に於て行はれて居る。

(一)先づ全勞大阪運輸交通労働組合安治川支部聯合會は、石炭運搬の勞夫及仲間の賃銀値上運動を開始し一月二十三日石炭運搬業組合收購し

決議文

一、勞夫の運賃並に仲間の賃銀を即時四割値上の實行を要求すを提出して、其の考慮を求め、同夜演說會を開催して趣旨の徹底